



はじめよう経済学⁺*Plus*
第6講 AD-AS分析(1)

講師：加藤 真也

今回(第6講)は…

- 古典派とケインズ派
- 労働市場
- 失業の分類
- AS曲線

古典派とケインズ派

1776年 アダム・スミス『国富論』

↕ 古典派(アダム・スミス, リカードなど)

1870年代 限界革命
(ジェボンズ, メンガー, ワルラス)

1929年 世界恐慌

1936年 ケインズ『一般理論』

↕ 新古典派

正式名『雇用、利子および貨幣の一般理論』

ケインズ派

↕ 1960年代 マネタリスト(フリードマン)

1970年代 合理的期待形成学派

↕ 新しい古典派 2

分析対象

財市場

45度線分析

貨幣市場

IS-LM分析

労働市場

AD-AS分析

労働市場

AS曲線が導出できる

① 労働需要(企業側)

: 労働者を何人雇いたい

⇒ 労働を需要する側 = 企業

② 労働供給(家計側)

: 労働者として何人働きたい

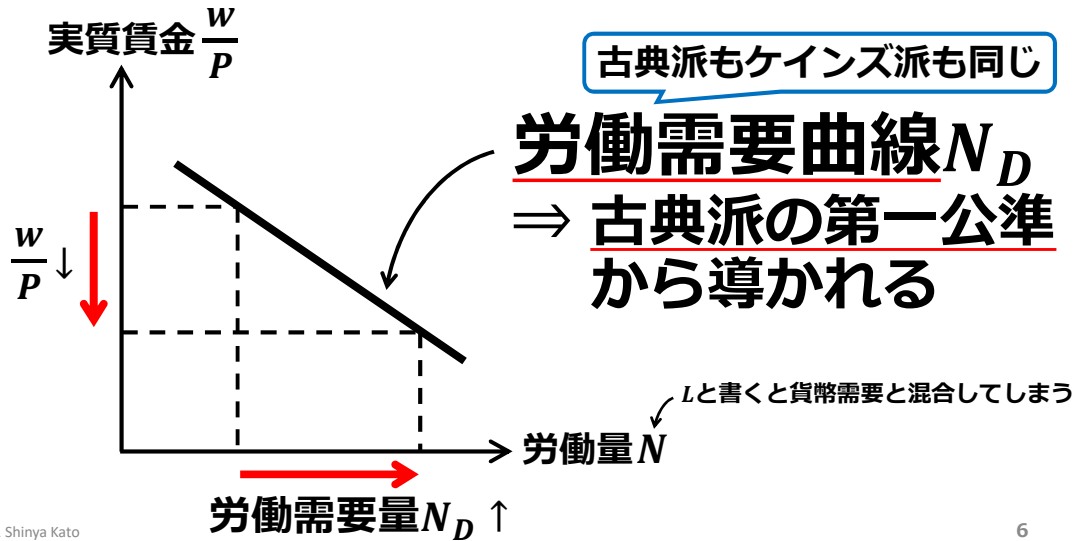
⇒ 労働を供給する側 = 家計

名目賃金(率) w <sup>貨幣賃金(率)
wage</sup>
: 労働者の賃金 (単位: 円)

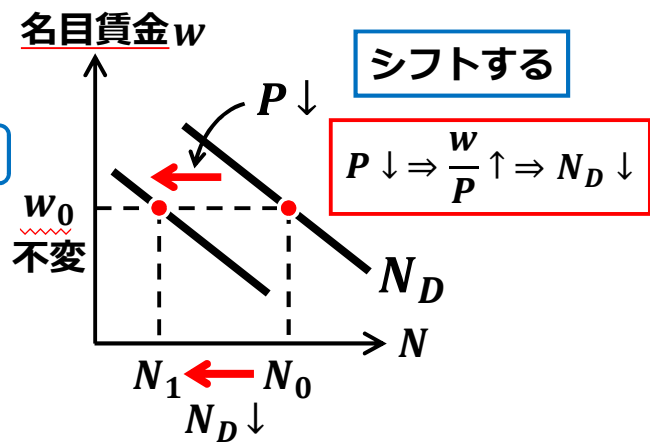
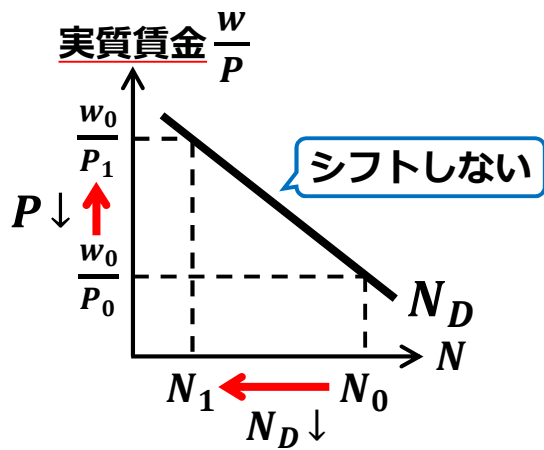
実質賃金(率) $\frac{w}{P}$ ^{← 物価}
: 労働者の賃金 (単位: 個)

例 $w = 1000$ 円
 $\frac{w}{P} = \frac{1000\text{円}}{200\text{円}} = 5$ 個

・ 労働需要

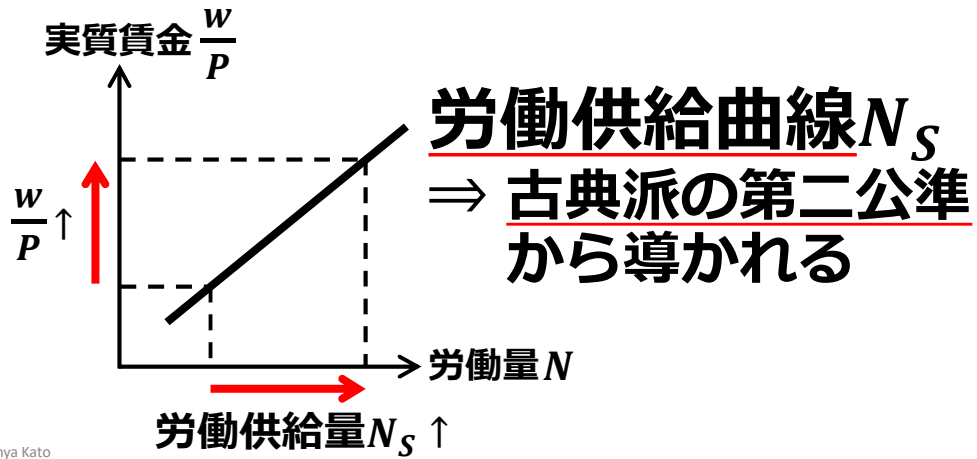


例 デフレ($P \downarrow$)



・ 労働供給

① 古典派



② ケインズ 仮定

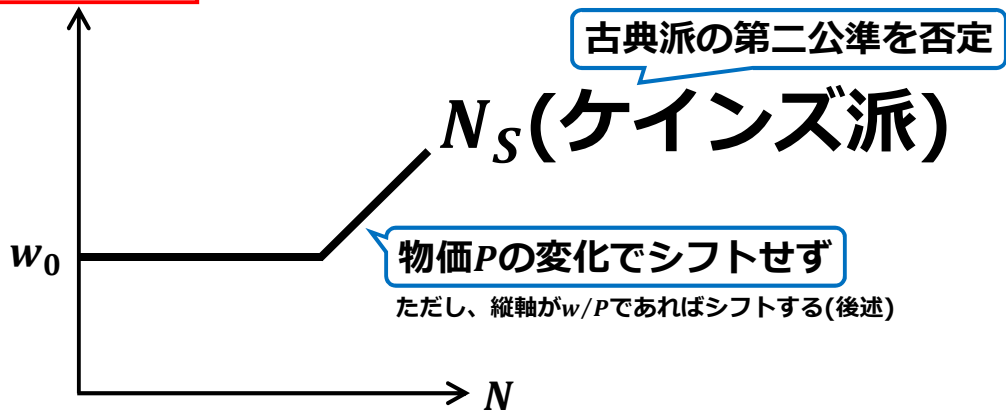
1. N_s は w に依存

⇒ 労働者は物価 P (実質賃金 $\frac{w}{P}$)
が分からない：貨幣錯覚

2. 名目賃金 w の下方硬直性
： w は下がりにくい

これらの仮定より、

名目賃金 w

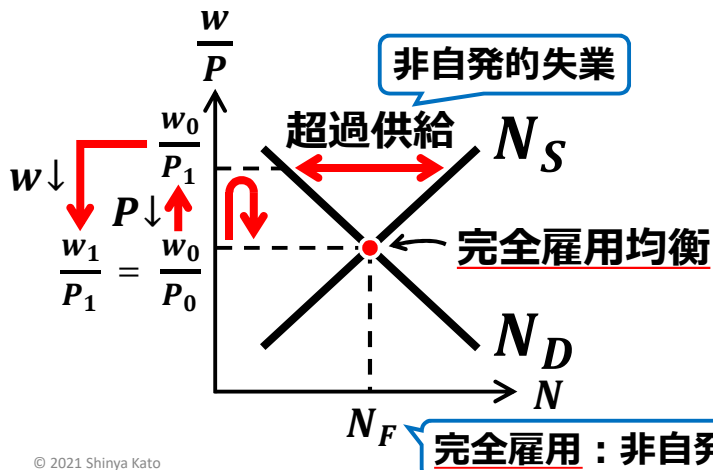


失業の分類 by ケインズ

- ① **自発的失業** 完全雇用(古典派)でも存在
： 現行賃金では働きたくないから失業
- ② **摩擦的失業** 完全雇用(古典派)でも存在
： 転職などによる一時的な失業
- ③ **非自発的失業** 古典派では存在せず
： 現行賃金で働きたいのに失業

・ 労働市場均衡

① 古典派



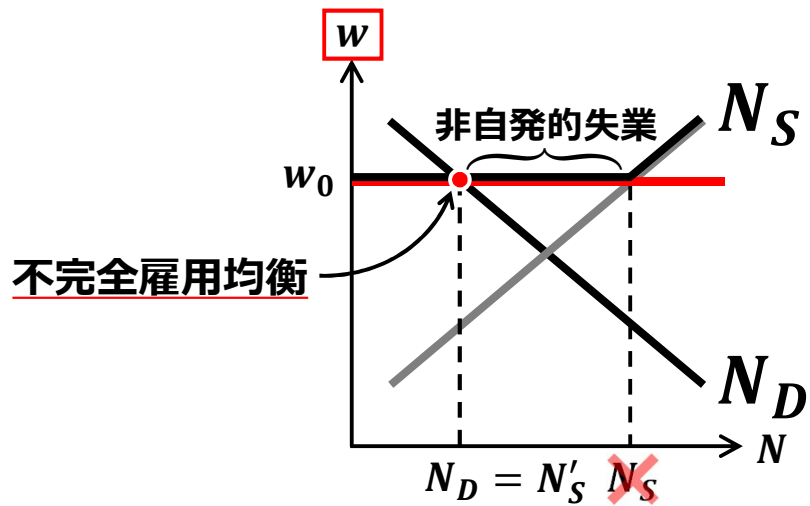
まとめ

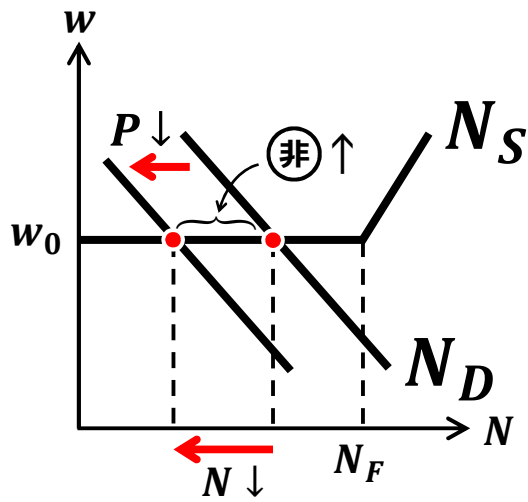
$P \downarrow$ (デフレ) $\Rightarrow \frac{w}{P} \uparrow$
 $\Rightarrow N_D < N_S \Rightarrow w \downarrow$
 $\Rightarrow \frac{w}{P} \downarrow \Rightarrow N_D = N_S$

w の伸縮性により
完全雇用に戻る

完全雇用：非自発的失業 = 0の状態

② ケインズ





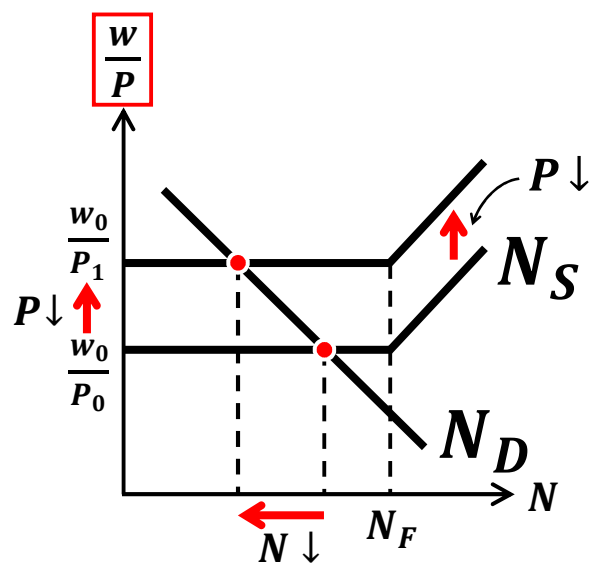
まとめ

$P \downarrow$ (デフレ)

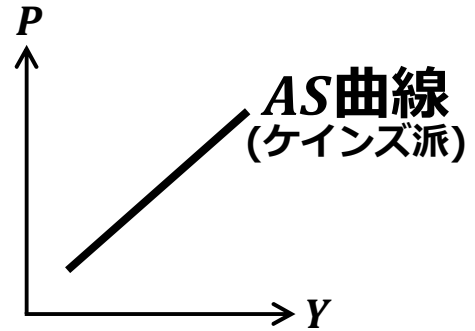
$\Rightarrow N_D$ 左シフト

\Rightarrow 非自発的失業が拡大

別の書き方

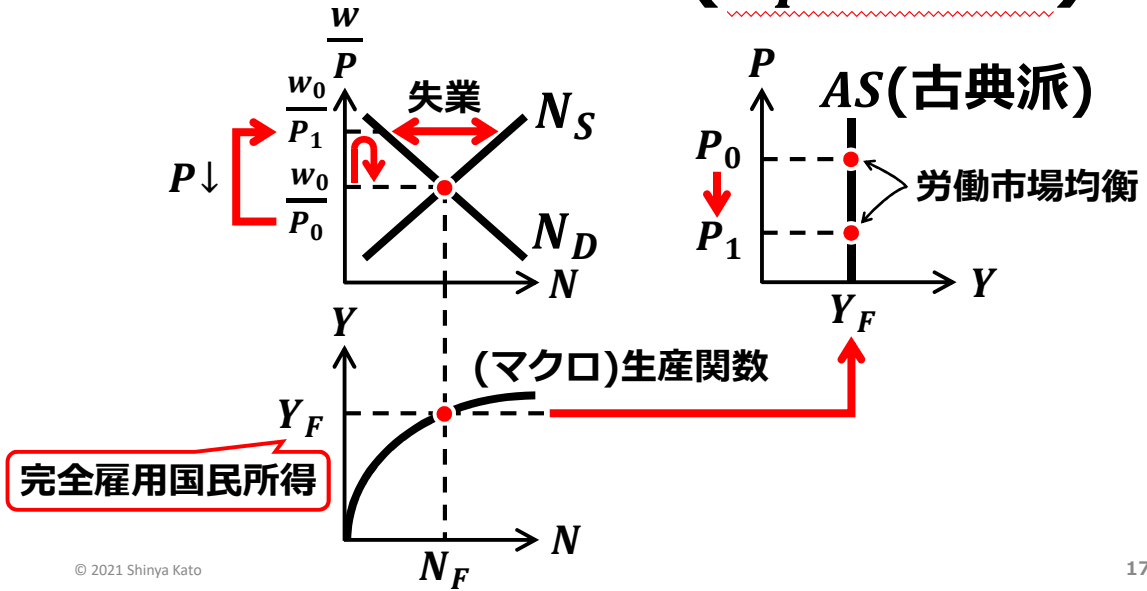


• **AS曲線の導出**
(総供給曲線)

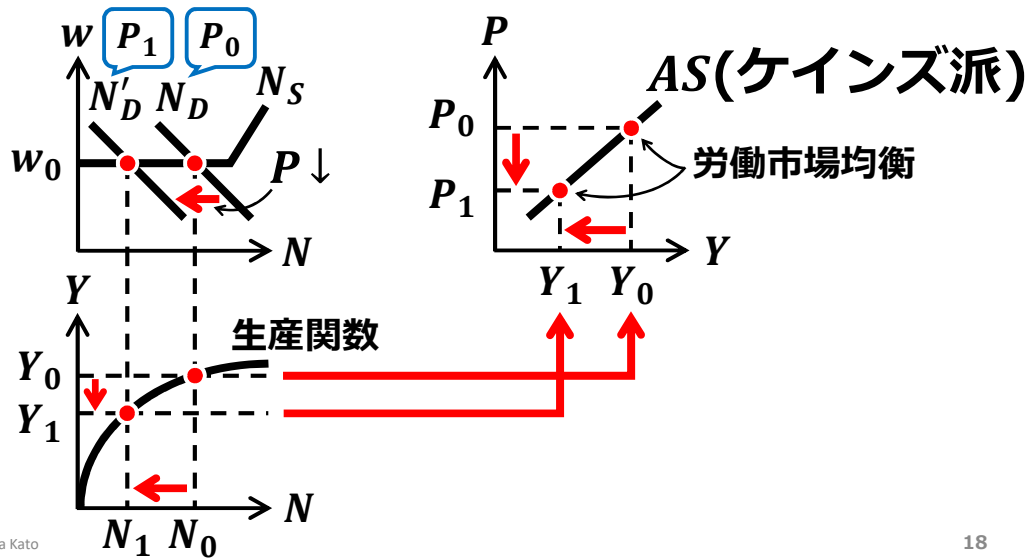


Aggregate : 集計する
Supply : 供給

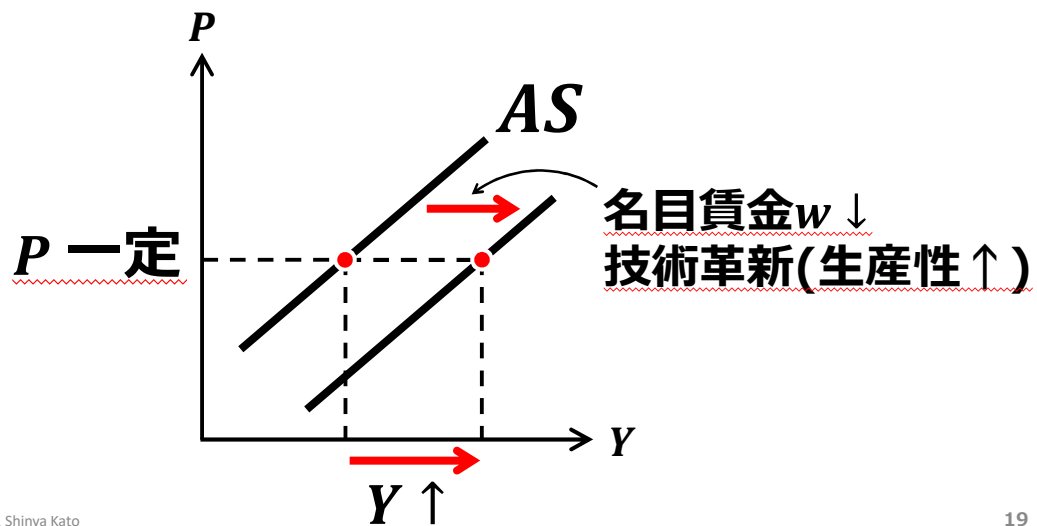
古典派のAS曲線(Y_F で垂直)



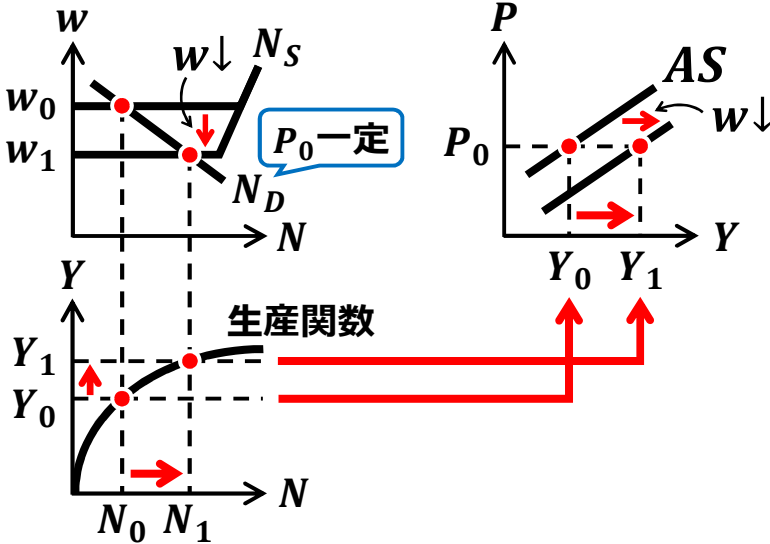
ケインズ派のAS曲線(右上がり)



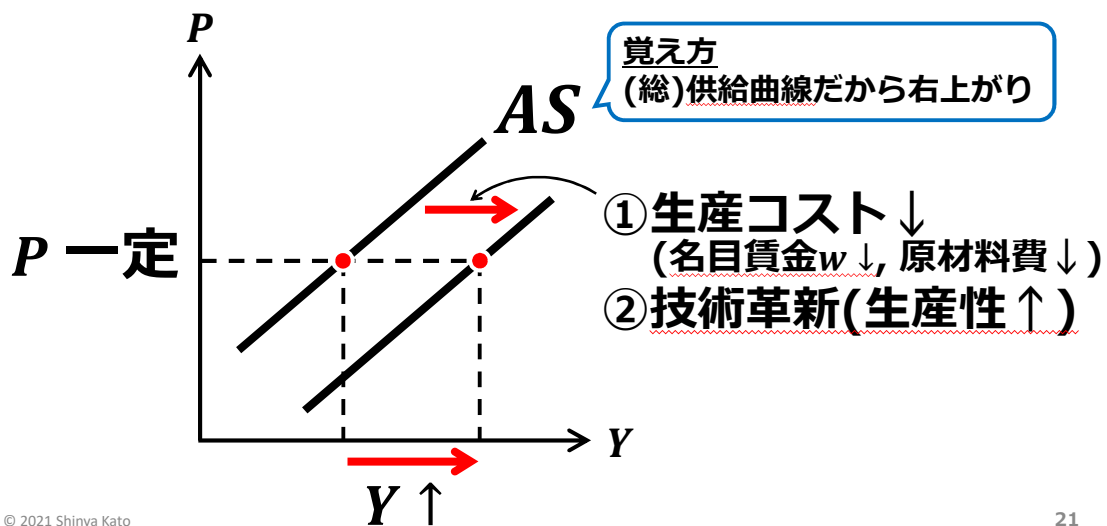
• AS曲線の右シフト



AS曲線の右シフト(要因: $w \downarrow$)



まとめ AS曲線(ケインズ派)



次回(第7講)は…

- ・ AD曲線を導出します
- ・ AD-AS分析を用いて、
財政政策と金融政策の効果を
深く理解します